

このリーフレットの提案モデルで使用する製品

物理サーバや仮想マシンのITリソースを管理するには

JP1/IT Resource Management 他 税込価格 157,500円～
(管理対象となる物理サーバ数によって価格が変動します)

ストレージや仮想ボリュームのITリソースを管理するには

Hitachi Command Suite
Hitachi Tuning Manager / Hitachi Device Manager 他 税込価格 239,400円～
(Hitachi Adaptable Modular Storage 2010/2100を管理対象としたときの価格です。管理するストレージ種別によって価格が変動します)

サービスレベルを利用者視点で監視するには

JP1/IT Service Level Management 他 税込価格 2,782,500円～
(監視対象となるWebサーバ数によって価格が変動します)

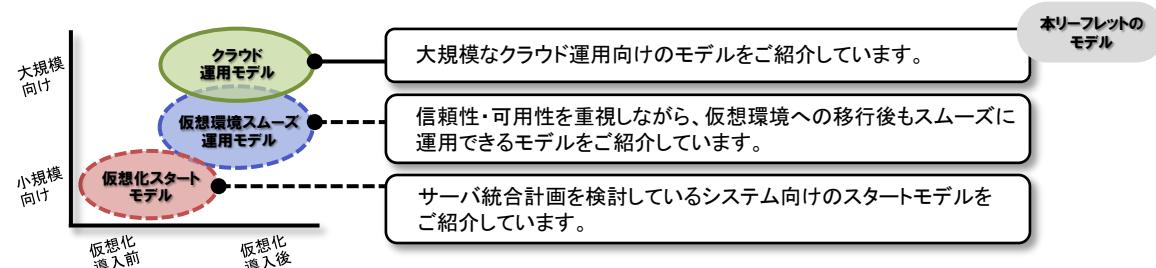
クラウドの運用手順やノウハウをシステム化して標準化するには

uCosminexus Navigation Platform 他 税込価格 1,060,500円
(運用手順の編集ユーザーを10としたときの価格です。編集ユーザー数によって価格が変動します)

このほかのモデルのご紹介

クラウド運用モデルのほかにも、日立オープンミドルウェアの仮想化に関するシステムモデルをご紹介します。詳しい情報は下記ページからご覧ください。

<http://www.hitachi.co.jp/soft/virtual/sol/>



製品サイトのご紹介

このリーフレットで扱っている製品の詳しい情報は下記のページからご覧ください。

統合システム運用管理 JP1

<http://www.hitachi.co.jp/jp1/>

ストレージ管理ソフトウェア Hitachi Command Suite

<http://www.hitachi.co.jp/products/it/storage-solutions/products/software/hsms/index.html>

SOAプラットフォーム Cosminexus

<http://www.hitachi.co.jp/cosminexus/>

製品に関するお問い合わせ

製品に関するご相談は、下記の連絡先までお気軽にお問い合わせください。

HMCC (日立オープンミドルウェア 問い合わせセンター)
0120 - 55 - 0504

携帯電話、PHSなどからは03-5439-2733 (通話料: 有料)
利用時間 9:00~12:00、13:00~17:00 (土・日・祝日・弊社休日を除く)

クラウド運用モデル

ビジネスの効率運用とコスト削減を実現するシステムのご提案

サービスレベルの
品質を維持したい

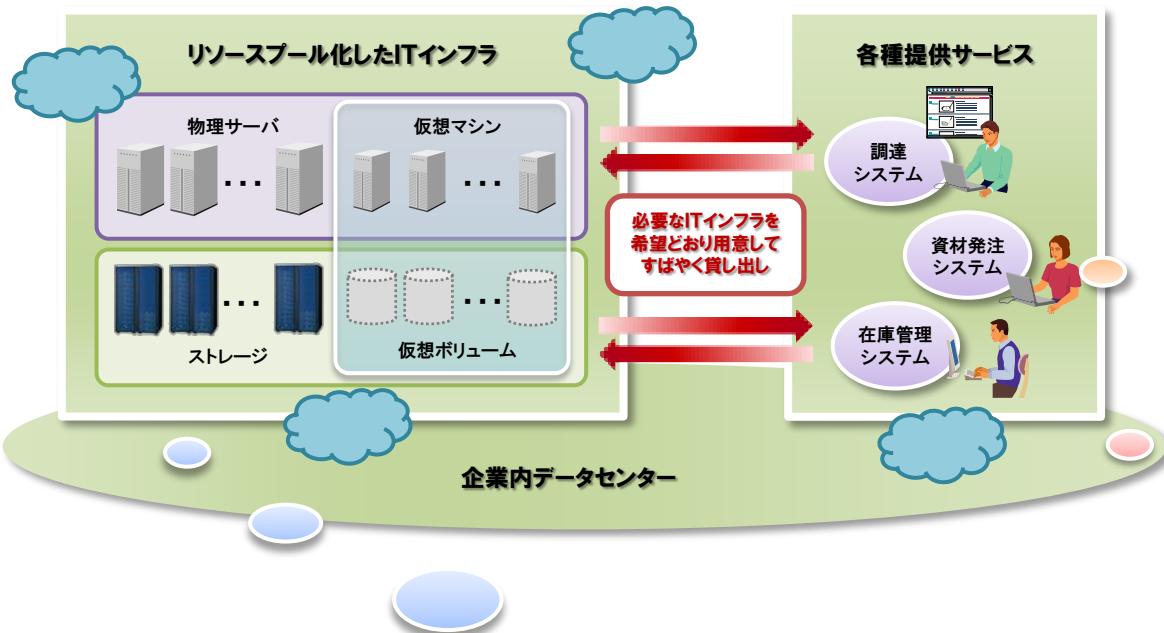
サーバとストレージの
ITリソースを
いっしょに管理したい

現場担当者のスキルに
左右されないクラウド運用を
実現したい

社内にこれからクラウド環境を導入したいお客さまに
ぴったりのシステム運用をご紹介します！

進展するクラウドの効率運用は 徹底したITインフラの管理とサービスレベルの監視から

社内システムが大規模化するほど管理が複雑になるサーバやストレージなどのIT資産。これらのリソースを継続してムダなく活用し、柔軟にビジネスで利用するため、プライベートクラウドの導入が進められています。また、導入後には、安定したサービスを継続して提供するために、サービスレベルの監視も早い段階で検討することが大切です。日立では、ビジネスの効率運用につながるITインフラの管理だけでなく、その先にあるサービスレベルの管理まで見据えたクラウド運用をご提案します。



JP1/ITRM と Hitachi Command Suite によるITリソースの 一括管理で **ビジネスの効率運用** を実現

各システム部門で保有されていたサーバやストレージなどのITインフラ。これらのリソースを一括管理することは、効率的なクラウド運用を今後実現するうえで欠かせない重要な要素となります。JP1/ITRM^{※1}とHitachi Command Suiteなら、サーバやストレージを一括管理し、プール化したリソースをビジュアルに把握できます。また、各部門からの要求に応じてITリソースの貸し出しを迅速に行えるので、ビジネスの効率運用につながるプライベートクラウド運用を実現できます。



※1 JP1/ITRM: JP1/IT Resource Management

JP1/ITSLM による利用者視点での Webシステムの監視で **サービスレベルの安定・維持** を実現

コスト削減を目的としたクラウドの導入が進み、サービスとして提供する形態も増えていることから、ITリソースの有効活用だけでなく、サービスレベルの安定・維持もクラウド運用において重要な要素となってきています。JP1/ITSLM^{※2}は、サービスレベルをサービス利用者の視点で監視することで、安定したサービスをお客様(サービス利用者)に提供できているかを確認することができます。また、いつもと違うサービスの状況を障害が発生する前に検知するため、サービス利用者がサービスの低下に気づく前に対処でき、快適なサービスを継続して提供できます。さらに、毎月のサービス状況のレポートを一覧で把握することもできるため、システム改善計画の立案にも役立てられます。



※2 JP1/ITSLM: JP1/IT Service Level Management

uCosminexus Navigation Platform で システムによる運用手順やオペレーションの標準化を実現

データセンターなどのクラウド運用において、現場担当者のスキルレベルや人員の入れ替わりに影響されずに運用管理を継続することは、サービスレベルや顧客満足度を維持するうえで重要です。uCosminexus Navigation Platformは、現場の複雑なオペレーションをフローチャートやガイダンスによって見える化することができます。「どこから、どの順番で、何をすればいいのかわかる」をシステム上で共有することで、運用手順やノウハウを標準化し、一定の品質を維持したクラウド運用の実現を支援します。

